

現代英語に現れた小説に由来するメタファー (I)

—「夢想家」Walter Mitty と「楽道家」Pollyanna & Pangloss—

大西 博人

0. はじめに

人びとによく知られている有名な小説は数多くあります。これらの小説のうち現代英語のなかに、その小説のタイトルや登場人物が現れるものがあります。通常、それらは比喩的に用いられています。

本稿では、米週刊情報誌や現代人気小説などの現代英語より筆者が収集してきた用例をもとに、小説の登場人物にまつわる頻度の高いメタファーを取り上げます。今回は文学的に高い評価を受けていなく、一般に広く読まれているようには思えない3つの小説より、現代英語でよく現れる「夢想家」と「楽道家」のメタファーを紹介します。

1. 「逃避的な白昼夢を見る人」のメタファー： Walter Mitty

ジェイムズ・サーバー (James Thurber) は、短編小説『ウォルター・ミティの秘密の生活 (*The Secret Life of Walter Mitty*)』を1939年に出版しました。この作品は1947年には映画化されています。

そのストーリーは、女房の尻にしかれている主人公 Walter Mitty が車で妻を毎週定期的にショッピングと美容院に連れて行くことになっており、その待ち時間の間に、自分が米海軍のパイロットや素晴らしい外科医などとして、英雄的に活躍する5つの白昼夢を見るというものです。

現在では、この小説の主人公 Walter Mitty は、「逃避的な白昼夢を見る人；夢想家」のメタファーとして現代英語に頻繁に現れています。

To some Japanese sociologists, Tora-San is a **Walter Mitty in reverse**. Instead of representing the daydream of success, as Mitty did for Americans, Tora-San is a symbol of freedom in an overly disciplined

society. — *Time*, January 17, 1983, p.37

ここでは松竹映画『男はつらいよ』シリーズの車寅次郎をこの小説の主人公と比較しています。ウォルター・ミティは、すべて成功する白昼夢を見るのですが、現実離れた夢を見るような生活をする寅さんは、いつも女性に振られ成功せず英雄でもないため、「逆ウォルター・ミティ」と表現されているのです。

Spring is the season to redo our gardens. For some gardeners, it is **Walter Mitty time**; but for others with hands itching for the feel of a spade, nothing is as inspirational as books on landscaping. — *U.S. News & World Report*, May 25, 1998, p.64

春は庭の手入れをやり直す季節ですが、それは「あれやこれやとうまく庭の手入れができていると夢想する時期」だと思っている人もいれば、造園についての本ほどインスピレーションを与えてくれるものはないと考える、スコップを持ちたいと手がうずうずしている人もいます。

ここでは Walter Mitty は「頭で都合のよいように考える机上の空論家」といったような意味です。

If you stood on the first fairway at the Mosholu Golf Course in the Bronx and had a full measure of **the Walter Mitty** that seems part of every golfer, you could almost pretend that the sound of the No. 4 train pulling into Woodlawn Station was the sound of surf on the rocks below Pebble Beach Golf Links in Monterey, Calif., where the 100th United States Open is being played this weekend. — *The New York Times Weekly Review*, June 18, 2000, p.6

ニューヨークのブロンクスにある Mosholu Golf Course で、最初のホールでプレーする人が、どのゴルファーにもある「英雄的な大白日夢」を呼び起こすなら、その人にはブロンクスの近くの駅に入ってくる列車の音も全米オープンが開催されている Pebble Beach Golf Links の下の岩に打ち寄せる波の音と聞こえるだろう、と述べています。

ゴルファーの夢は全米オープンでペブルビーチ・ゴルフコースでプレーすることだからなのです。ここでは小説と同じ「成功する白日夢」を表していません。

Many Taiwanese harbor Walter Mitty dreams of squaring off alone against China. During the 1995 missile crisis, taxi drivers festooned their cabs with banners urging SHED YOUR BLOOD FOR TAIWAN! Taipei's mayor, a likely contender for the presidency in 2000, is a supporter of Taiwan independence. — *Newsweek*, August 17, 1998, p.19

これは中国に対する台湾独立派の心情についての報道で、多くの台湾人は中国に対して単独で戦う構えを見せるという「ウォルター・ミティ的夢」を抱いているのです。つまり、首尾よく台湾の中国への併合を阻止し、台湾の独立を維持するという夢なのです。

そのことは、1995年の中国と台湾の間でのミサイル危機で、タクシー運転手たちが「台湾のために血を流せ」とする垂れ幕を車につけてデモをしたことでもわかるのです。

Why was it that so many women artists who had renounced having children could then paint nothing but mothers and children? It was hopeless. If you were female and talented, life was a trap no matter which way you turned. Either you drowned in domesticity (and had Walter Mittyish fantasies of escape) or you longed for domesticity in all your art. You could never escape your femaleness. You had conflict written in your very blood. — Erica

Jong, *Fear Of Flying*, A Signet Book 1974, p.157

ここでは芸術的な才能のある女性は、家庭生活に埋没し「ウォルター・ミティ的な逃避的な白日夢」に浸っても、すべての芸術のなかに家庭生活のテーマを生かす道を求めても、いずれにしても決して女性であることから逃れられない、という女性の葛藤を述べています。ここでの夢は原作と同じ意味をもち、逃避的な成功する白日夢を表しています。

2. 「盲目的な楽道家」のメタファー： Pollyannaish

アメリカの小説家エレナ・ポーター(Eleanor Porter)は、多くの恋愛小説・家族小説を手がけ、1913年に発表した『少女ポリアンナ(Pollyanna)』と、1915年のその続編『ポリアンナの青春(Pollyanna Grows Up)』はヒット作品となりました。

主人公 Pollyanna Whittier は、11歳の少女で両親を一度に亡くし、叔母の家に引き取られるのです。彼女は頑固といえるほど朗らかで、どのような状況においても喜べることを見つけるのです。例えば、人形が欲しいときに松葉杖を贈られると、歩けるので必要がないと喜ぶのです。彼女のこのような性格により、Pollyanna は「盲目的な楽道家」を表しています。

It is, again, impossible to say how widespread the cheating will be in Sydney. When the question is asked of experts, answers range from Pollyannaish to doomful. — *Time*, September 11, 2000, p.50

この記事では世界的に有名なスポーツ選手が、人を欺いて薬物を使用していることがいかに蔓延しているかを伝えています。この問題で専門家に意見を求めると、「楽観的」から宿命的というまで答えに幅があるのです。

The answer, Bush had concluded, was to fight for peace and justice — and to pray. “Pray for patience, pray it will not happen again,” he said. As for him, he was healthy and rested, focused and feeling “confident without being Pollyannaish.” But he needed

divine help, too. "Pray for wisdom, strength, clear thinking," he said, and joined hands with the circle as they did so. — *Newsweek*, October 1, 2001, p.20

ブッシュ大統領は、米同時多発テロでホワイトハウスの建物も標的になっていたかもしれない、テロに対する答えは平和と正義を求めて戦い、祈ることだと述べているのです。ブッシュ自身としては、健康状態はよく目的意識は明瞭で、「楽観的」になることなしに自信をもっていたのです。

That night, Lara was awakened by the sound of the piano. She got out of bed and quietly walked over to the entrance of the drawing room. Philip was in his robe, seated at the piano, his right hand softly playing. He looked up when he saw Lara.

'Sorry if I woke you up'

Lara moved toward him. 'Darling ...'

'It's a big joke, isn't it? You married a concert pianist and you wound up with a cripple.'

She put her arms around him and held him close. 'You're not a cripple. There are so many things you can do.'

'Stop being a goddamn Pollyanna!'

'I'm sorry. I just meant ...'

'I know. Forgive me, I ...' He held up his mutilated hand. '... I just can't get used to this.' — Sidney Sheldon, *The Stars Shine Down*, Fontana 1992, p.383

コンサート・ピアニストの Philip は、左手をひどく損傷していて、夜遅く片手でピアノを弾いているのです。妻の Lara はベッドから起きてきて、手が不自由でもできることがたくさんあると夫を励ますのですが、彼は「わざと楽観的なことは言わないでくれ」と言い返している場面です。

Last night Matt Hunter had scoffed at Lance's seemingly Pollyanna-ish attempt to keep evil out of his fair town. — Harlan Coben, *The Innocent*, A Signet Book 2005, p.287

警官 Lance は自分の町から悪を一掃しようとしていたのですが、彼の幼なじみの Matt Hunter は彼の一見「ナイーブな楽観的な」試みをあざ笑っていたのでした。

Basically, the Pollyannas of this world say that Malthus was wrong; the population has continued to grow, economies remain robust — and famines in Biafra and Ethiopia are more aberrations than signs of the future. Cassandras reply that Malthus was right, but techno-fixes have postponed the day of reckoning. There are now 6 billion people on Earth. — *Time*, November 8, 1999, p.72

これは世界の人口増加と食料不足について、英国の経済学者 Thomas Malthus の人口論が現在の世界に当てはまるかの賛否についての報道です。「楽観論者(the Pollyannas)」は、人口は増加しても経済は成長し続け、マルサスは間違っていたと言い、「悲観論者(Cassandras)」は、技術的解決策は審判の日を延ばしただけで、マルサスは正しかったと応えているのです。

3. 「極端な楽道家」のメタファー： Panglossian

フランスの啓蒙思想家ヴォルテール(Voltaire)は、1755年11月1日に発生したリスボン大地震の惨事に衝撃をうけ、ライブニッツの楽天主義に疑問を抱き、1759年『カンディードあるいは楽天主義説(*Candide, ou l'Optimisme*)』を執筆するに至ったと言われています。

この小説では、ライブニッツ哲学が風刺されており、ドイツの貴族の若者カンディードの家庭教師である哲学者パングロス(Pangloss)が登場します。物語の中で繰り返される不幸や災難にもかかわらず、パングロス博士は「すべての出来事は最善であり、自分は最善の可能世界において生活している」と主張し続けるのです。

現代英語では Pangloss が「極端な楽道家」であるという面が切り取られ、「極端に楽天的」という意味を表す際、決まってこの人物の形容詞形“Panglossian”が現れます。

There is, after all, no shortage of intractable problems in the world, and Clinton has proposed few real solutions. But perhaps every president must find reason to hope. Certainly George Bush and Ronald Reagan had their Panglossian moments. And for an activist president like Bill Clinton, optimism may be essential. Friends say he needs, almost desperately, to believe he can make a difference. — *U.S. News & World Report*, October 4, 1993, p.17

世界には厄介な問題には事欠かないのだが、クリントン大統領は現実的な解決策をほとんど見出してこなかった。だがどの大統領も希望をもたせる理由を見出さなければならぬだろう。そのことについてはジョージ・ブッシュとロナルド・レーガンの両大統領は「楽天的になる瞬間」があったが、クリントンはそれに欠けていたと述べています。

パングロス博士の形容詞形 Panglossian は「極度に楽天的な」という意味で用いられています。以下の用例で見るように、政治、経済、自然現象など幅広い文脈で用いられています。

In a NEWSWEEK interview, McCain for the first time compared the situation in Iraq to Vietnam, where he survived six years of wartime imprisonment, and began openly distancing himself from Bush's war strategy. McCain, aides say, was rankled by what he saw as a useless, Panglossian classified briefing, especially after reading Donald Rumsfeld's now infamous internal memo.

— *Newsweek*, November 3, 2003, p.16

共和党のMcCain上院議員は、ブッシュ大統領のイラク戦争での戦略から明らかに距離を置き始めた。マケインがラムズフェルド国防長官の「役に立たない楽観的な機密扱いの戦況要約」の内容を見て不愉快に思ったことも、彼の態度の変化の原因だとする補佐官の意見が報じられています。

A strong economy doesn't necessarily make for a strong stock market. And when you look below the surface, you find even

the most Panglossian New Era types are actually hedging their optimistic long-term projections with plenty of warnings and equivocations and quibbles.

— *Newsweek*, November 10, 1997, p.20

この時代は科学技術、グローバル化、生産性の向上により万事がよい方向に向かう“the New Economy”を信じている“New Era types”を「最も楽観的な人たち」と表現しています。しかし、彼らでさえ自分たちの楽観的な長期的予測を、多くの警告やあいまいな言葉遣いやごまかしでトーンダウンしているのです。

Skiers distrustful of resorts' Panglossian snow reports can try a new fax service that rates conditions independently. — *U.S. News & World Report*, January 17, 1994, p.64

スキー場の「楽観的な積雪情報」に不信感を抱くスキーヤーたちは、独立して雪の状態を伝える新しいファックス・サービスを試みることができるという記事です。

Not even researchers who agree that the world is warming, and will keep warming, agree on what happens next. On the one hand, Panglossians foresee milder winters and bumper crops from Kansas to Siberia. Despite the recent weather, they expect fewer severe storms in the future: temperature differences between the poles and the equator will even out, and the fury of storms will therefore diminish. — *Newsweek*, January 22, 1996, p.43

これは地球温暖化についての報道で、地球が温暖化し続けることに同意している研究者でさえ、次に何が起こるかについては意見が分かれています。一方、「楽観的な研究者たち」は、温暖化すると冬が温暖になり広域にわたり豊作となる。また将来ひどい嵐も少なくなり、南北極と赤道との温度差も等しくなると予見しています。